

2014

国語

注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は㊦から㊨まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

香緒(私)とちなみは元々親友であったが、ちなみは梨本くん(か)のことが好きであるのに対して、実は梨本くんは香緒のことが好きだと分かり、二人の間は気まずくなって半年近くもろくに口をきいていない。香緒はちなみの本当の気持ちを知らたいが、怖くて聞くことができないでおり、待っているだけの自分にも嫌気が差していた。ある日ふと、向こうは自分が話し掛けるのを待っているのではないかと考えが浮かぶと、憂鬱な気分が消え心が軽くなった。ちなみの真意を確かめようと部活動の朝の練習に行ったところ、テニスコートで一人でいる彼女の姿を見つけた。

私は、急いで階段を駆けおりた。

なんていうタイミングだろう。もうこれは運命としか言いようがない。神様が、いまがチャンスだ！ 仲直りするチャンスだ！ と教えてるのしか思えなかった。味方になってくれているのしか考えられなかった。私はコートにむかって、ダッシュした。

金網のドアを開けて、コートに入る。ちょうど、ちなみがサーブを打ったところで、ボールが地面に強たたきつけられて大きく跳ねあがる。そのボールが、ちょうど私の手前に転がってくる。私とちなみが話すきつかけを、Xまるで神様がつくってくれたかのように……。私にはそう見えた。私はもう怖くなんてなかった。運命も神様もいまはみんな、私の味方になってくれる。そう信じられた。

私はそのボールを拾いあげると、呼びかけた。

「ちなみ！」

私は、笑顔でちなみのほうに歩きます。

ちなみはやっぱ私と目を合わせないで、次に打つボールを見ているけど、私はもうくじけない。ちなみは、本当は待ってるから。仲直りのきつかけを待っているから。

「①また、友達になろうよ。また、いっしょに遊ぼうよ！」

私はちなみに近づきながら呼びかけた。真っ白な曇り空から、冷たいものが落ちてくる。

「私、ちなみといっしょじゃないとつまんないよ。ちなみといっしょじゃないと、私、なんにもする気にならないよ。全部、つまんないよ！」

ちなみは私から目をそらせたままで、ボールを見つめている。私はちなみの肩に手をかける。

「ねえ、あんなことで、私、ちなみとダメになりたくないよ！」

ちなみがやっと私を見た。A私の顔を哀しそうな目をして見つめる。そして、

「あんなことってなに？」

思ってもみなかった言葉が返ってきた。

「②えっ？」

「私にとっては、あんなことじゃないよ。香緒にとっては、あんなことかもしれないけど、B私にとっては死ぬほど辛いことだったよ！」

私はあわてた。こんなはずじゃなかった。

「そういう意味じゃなくて……！」

さっきまでの自信満々な気持ちが空に吸いこまれてゆく。味方なはずの神様が舞いもどってゆく。

「じゃあ、どういう意味？」

ちなみの言葉に、私はあうろたえた。どういう意味だろう……。

あんなこと。

あんな出来事。

あんな失恋。

私は言葉をなくした。なんて軽はずみなことを言ってしまったんだろう。私が言いたかったのは、そうじゃなくて……。

私は必死で次の言葉を考えた。空からまた冷たいものが落ちてくる。地面にポツポツと水玉のしみができてゆく。

「③私、もう香緒とはいっしょにいられないよ！」

突然、ちなみがポツリと言った。C私の心臓がパチンと割れた。

「どうして？」

私は、ショックで 1 とすわりこんでしまいたい気分だった。予想もしなかった言葉に、目の前が真っ暗になる。

「香緒といっしょにいるの、疲れちゃったの。いっしょにいると、辛い！」

ちなみが足もとに視線を落として、静かに告げる。その言葉が私の心をパチパチと打つ。

「どうして？」

ちなみの口から 2 と落ちてくる私への予想外の気持ちに、私はうろたえるばかりだった。

「香緒はよく私のことしっぴかりしてるって褒めてくれたけど、私、そんなにしっぴかりしてないよ。そんなに強くないよ。私、香緒にそうやって誤解されてるのが、辛かった」

「そんなことないよ。ちなみはしっぴかりしてるよ」

私は、あわてて否定した。

「しっぴかりなんてしてない。香緒は本当の私を知らないだけだよ」

「知ってるよ」

「知らないよ。だって、さっきだって私の失恋を、あんなことって言ったじゃん。私が死ぬほど辛い思いしたの、知らないじゃん」

ちなみの声は、D泣いてるみたいになびれていた。

「お願いだから、もう、私にかまわないで」

こんな辛そうな顔をするちなみを見るのは、はじめてだった。

「悪いけど、練習のじゃまだから、コートから出てって」

私は、もうなにも言えなかった。

もう充分だった。

ちなみの私に対する気持ちは、「いっしょにはいられない」のだと、はっきりした。

私はbぽうぜんと地面を見つめるばかりだった。水玉のしみが、どんどんふえてゆく。

「お願い、出てって」

ちなみの静かな言葉に押されて、私はちなみから離れた。雨が降りだしていた。コートを出て、体育倉庫を横切って、学生ホールもそのまま通り過ぎた。もう、クラブに出る必要はない。雨だからじゃなくて、もう、私が練習に出る目的はなくなってしまった。

ちなみの親友にもどりたい。そんな望みは、もうかなわないとわかった。はっきり、わかってしまった。

校門を出たところで、女の子の集団が私を追いぬいていった。バドミントンのラケットを傘がわりにして、キヤーキヤーと楽しげに雨に打たれている。私には走る元気がない。

ちなみが私と口をきかなくなったのは、梨本くんのことの原因じゃなかった。cバツが悪くて、私から離れていたわけじゃなかった。

それは、あくまできっかけ、らしい。

「いっしょにいるの、疲れちゃったの」

ちなみはそう言っていた。いっしょにいて楽しいと思っただのは、私だけだった。

ちなみがそんなふうにも思ってたなんて、全然知らなかったし、気がつかなかった。

④最低

私、これからどうすればいいんだろう。

ゼンマイを巻いてみた。動くために、E自分で自分のゼンマイを巻いてみた。だけど、大きな壁に衝突して、ひっくり返って、そのままやっぱり動けなくなってしまった。

それが、いまの私。

私は 3 と歩きつづけた。さっき通ったときは、なにもかも光って見えた。なにもかも楽しげに聞こえた。いまはもう、足もとのアスファルトの濃い灰色しか見えない。いろんなものをひっぱたくように打ちつける雨の音しか聞こえない。

(草野たき『透きとおった糸をのばして』による)

問一 波線部 a、b、c の意味として最も適当なものをそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a うろたえた

ア 不安になった

イ 動揺した

ウ 押し黙った

エ 混乱した

オ ためらった

b ぼうぜんと

- ア 疲れ果ててぐったりと
- イ 食い入るようにじっと
- ウ 人目を避けてひっそりと
- エ 手持ち無沙汰にそっと
- オ 見るともなくぼんやりと

c バツが悪くて

- ア 気まずくて
- イ 罪悪感にかられて
- ウ 仕返しを恐れて
- エ 相性が合わなくて
- オ 申し訳なくて

問二 空欄

1

3

に入る語句として最も適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア とぼとぼ

イ ぼろぼろ

ウ そろそろ

エ ざくざく

オ せかせか

カ へなへな

問三

二重傍線部X「まるで神様がつくつくしてくれたかのように」と同じ種類の比喩が使われている部分を、二重傍線部A～Eの中から選んで、記号で答えなさい。

問四

傍線部①「また、友達になろうよ。また、いっしょに遊ぼうよ」とありますが、このときの「私」について説明したものと最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 自分と同じくちなみも仲直りがしたいのだと決めつけ、明るい様子で話しかけている。

イ 梨本くんのことを思い出し辛い気持ちにならないように、何気ない様子で話しかけている。

ウ 仲直りの申し出をちなみに断られても傷つくまいと、決死の覚悟で話しかけている。

エ 久しぶりに話しかける緊張と不安をかき消そうと、自然な様子を装い話しかけている。

オ 仲直りの気恥ずかしさを感じつつも、勇気を振り絞り、飾らない言葉で話しかけている。

問五

傍線部②「えっ？」とありますが、このときの「私」の心情として適当なものを次の中から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア 疑い

イ 悲しさ

ウ 驚き

エ 怒り

オ とまどい

カ 恐れ

問六

傍線部③「私、もう香緒とはいっしょにいられないよ」とありますが、「いっしょにいられない」理由をちなみはどのように説明していますか。四十字以内でまとめなさい。

問七

傍線部④「最低」とありますが、このときの「私」の気持ちを五十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問八

本文の特徴について述べたものとして適当なものを二つ選んで、記号で答えなさい。

ア ちなみの「私」に対する怒りが、サーブにより強くなったきつられたテニスボールによってほめかされている。

イ 「私」とちなみの関係の危うさや、「私」の暗い気持ち、徐々に勢いを増していく雨によって象徴されている。

ウ 「私」がちなみと親友に戻る可能性が、バドミントンのラケットでふざける女の子の描写によって暗示されている。

エ 会話で書かれている部分以外にも「私」の心情が語られており、細かな気持ちの移り変わりが分かるようになってい

オ 一文一文が短く、テンポ良く語られており、重苦しい内容にもかかわらず全体的にユーモラスな雰囲気包まれている。

カ 倒置法や対句法などが多用されており、「私」の経験したエピソードの強烈さが直接伝わるような工夫が施されている。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

書く方法論として最近「話すように書けばいい」とよく言われる。a いっつも言葉を話しているのだから、話すように書けば、苦手意識な

く自然に書けるというのが、その狙いだらう。

しかし、本来「話す」ことと「書く」ことはまったく違う行為である。その点を誤解している人が多い。まず「話す」ことは、基本的にプライベートな行為である。それに対して、「書く」という行為は、話すことのようにその場で消えてしまふのではなく、文字として残る。そのことによつて、「書く」ことは公共的な行為になる。

たとえば、「あいつバカだよ」と言つたとしても、にこやかに笑ひながらであれば、話す本人が、バカだと批評している相手のことをけなしているわけではなく、愛情を込め、好意をもつて言つたのだと伝わる。

しかし、それを文章で書いてしまったら、どうだろうか。その場の雰囲気やニュアンスがよほどよく表現されない限り、「あいつはバカだ」という言葉がそのまま文字として定着してしまう。①話し言葉のニュアンスは、書き言葉ではよほどよく表現しないかぎり伝わらない。それが書き言葉——②文字の怖さである。

「書く」ことの基本的な機能は、体験の意味、経験の意味をあらかじめすることである。体験の意味や経験の意味をあらかじめするために、スローモーションでフィルムを回すように、言葉によつて体験を定着させるのである。

書き言葉はその定着力に特徴がある。体験は、そのままにして放っておけば、流れ去ってしまう。それを言葉にすることによつて、後で読み返せる形にして、そのときの心の状態をつかみとることができるようになるのだ。

話された言葉がその瞬間に消えていくのに対して、書かれた言葉は定着し、時間を超えて残る。それが書き言葉の威力である。③文字の永続性を活用して、不安定なものをその都度確定していき、経験の意味を残すところに、書くことの基本的機能があるのだ。

もちろん、話すことの強さというのものもある。

偉大な宗教家、たとえばキリスト、孔子、釈迦などは、彼ら自身で書いたものを残していない。彼らが自らの思想を文字として残さなかったのはなぜだろうか。それは、文字にして定着させた途端に、そこから真実が抜け落ちてしまうと考へたからではないか。

彼らは、その時その場の状況で、人々にライブで語りかけていた。それぞれの状況で意味を持つ言葉の強さというものを知っていたのである。ある雰囲気、特定の文脈の中で話された言葉が、**c**もつとも**④生命力が強く**、人に訴えかけられることを**A熟知**していたのである。

ところが、それは書かれた途端にまったく違う意味を持つてくる。異なった状況の人たち、時代も文化もd違う人たちにも読まれることになる。そうすると、その状況の背景説明も必要になってくる。そんな説明をした途端に言葉の力強さは失われてしまう。

宗教家が相手にしていた民衆はその時代、その状況の人たちである。その場の状況によつては、まったくB矛盾した言葉を発することもある。だが、その状況の中では、その言葉自体がもつとも力強く、そのとき話している相手の心に届いたのだ。

彼らの言葉は自ら書いたものではなく、たいていはその弟子たちが書き残している。宗教家ではないが、たとえば哲学者のソクラテスにしても、**⑤彼自身はまったく書いてはいない**。弟子のプラトンによつて、どういふ状況でどのような言動をしたのかが書き記されているだけだ。

書くという行為によつて、言葉はその人の身体から切り離され、特定の状況から切り離されてしまう。それだけに、誤解を生みやすい面を持つている。だからこそ、書くときには**⑥公共性の意識**が大切になる。

書かれた文字は、書かれたときの状況も知らない人たちが、後でどう読むかわからないのだ。そこが「話す」ことと「書く」ことの大いなる違いである。

だから、「話すように書く」という方法は、「話すこと」と「書くこと」のそれぞれの特徴を考えず、公共性というものを**cまったく考慮**に入れない危ういものなのだ。両者の違いをはつきりと意識しなければ、書く力はけつして向上しない。

(注1) プライベート……私的な。個人に関わる。

(齋藤孝『書く力』による)

問一 二重傍線A・Bの言葉の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- A 熟知
- ア 多くのことを知っていること
 - イ だれもが知っていること
 - ウ くわしく知っていること
 - エ あらかじめ知っていること
 - オ なんとなく知っていること

- B 矛盾
- ア いいかげんなこと
 - イ 言葉がよくわからないこと
 - ウ 人をこまらせること
 - エ 話がはつきりしないこと
 - オ すじみちが通らないこと

問二 波線部 a~e の中で、言葉の働きが違うものを一つ選んで、記号で答えなさい。

問三 傍線部①「話し言葉のニュアンス」の例として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 父親が「いいかげんにしろ」と今までにはない真剣な表情でどなったことから、深刻な状況であることが伝わる。
- イ 母親が「本当にこまったわ」と言いながら笑顔でいることから、むしろ喜んでいることがわかる。
- ウ 先生が「しつかりしなさい」と熱心に励ます姿を見て、自分もがんばらなければならないことを自覚する。
- エ 友だちが「どうしたらいいかわからない」と言うのを聞いて、自分自身もわからないことに気づく。
- オ 弟が「おいしそうだね」とうれしそうな顔を見せたことから、お腹がすいていたことがわかる。

問四 傍線部②「文字の怖さ」の内容を説明したものととして、最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア その時のニュアンスやその場の雰囲気伝わらず、誤解を生じてしまうかもしれないこと。
- イ 言葉がその人の身体から切り離され、読んだ人に恐怖心を与えてしまうこと。
- ウ 体験や経験の意味を作り出すことにこだわるために、強い生命力を維持できないこと。
- エ 文字で書かれた文章が、いたるところで悪事に利用されてしまうこと。
- オ 文字の便利さばかりが強調されて、話し言葉のすばらしさが忘れられてしまうこと。

問五 傍線部③「文字の永遠性」とは何ですか。本文中の言葉を使って十字以内で答えなさい。

問六 傍線部④「生命力が強く」とありますが、これは話し言葉のどのような特徴を述べたものですか。三十字以内で答えなさい。

問七 傍線部⑤「彼自身はまったく書いてはいない」のはなぜですか。その理由が書いてある部分を三十五字以内で抜き出し、そのはじめとおわりの五字を書きなさい。

問八 傍線部⑥「公共性の意識」とありますが、公共性を意識するとはどういうことですか、説明しなさい。

問九 本文の内容にあうものにはA、あわないものにはBを答えなさい。

- ア 自らの考えを書いたものを残していない偉大な宗教家が多い。
- イ 話すことでしか、体験の意味、経験の意味をあらわにすることはできない。
- ウ 文字を必要とする書き言葉の起源は、話し言葉より古い。
- エ 書くときには一人で勝手に書かず、必ずだれかに読んでもらわなければならない。
- オ 書くことと話すことの違いをはつきり意識することで書く力が向上する。

三 次の傍線部のカタカナにあたる漢字を書きなさい。

- ① 国王の書物をハイケンする。
- ② ソントクを考えずに行動する。
- ③ 友達に本をカサす。
- ④ ヒョウジュン的な問題を解く。
- ⑤ フクザツな表情を見せる。

注意 字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。

| 問九 | 問八 | 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| ア | | はじめ | | | | | | A |
| | | | | | | | | |
| イ | | | | | | | | B |
| | | | | | | | | |
| ウ | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| エ | | おわり | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| オ | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

| 問八 | 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 | a |
| | | | | | | | |
| | | | | | | 2 | b |
| | | | | | | | |
| | | | | | | 3 | c |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ④ |
| ⑤ |

| | | |
|------|------|--|
| 受験番号 | フリガナ | |
| | 氏名 | |

| | |
|----|--|
| 得点 | |
|----|--|